

18 世紀フランス語におけるリエゾン

Gile Vaudelin 文献の予備的調査から

川口 裕司

(東京外国語大学大学院総合国際学研究院)

要 旨

Gile Vaudelin の 2 つの著作 *Nouvelle manière d'écrire comme on parle en France* (1713) と *Instructions chrétiennes, mises en orthographe naturelle, pour faciliter au peuple la lecture de la Science du salut* (1715) をコーパスとして、そこに用いられている綴り字を分析し、18 世紀初頭のフランス語におけるリエゾンの現象を記述し、その特徴を共時的および通時的に位置づけようと努めた。

1. はじめに

The Sounds of French An introduction という本の中で、Bernard Tranel はフランス語におけるリエゾンの歴史を実に手際よく、かつ簡潔にまとめている。

In Old French final consonants were pronounced, but from the twelfth to the sixteenth centuries, they progressively disappeared, first in preconsonantal position and then at the pause, leaving them to appear only in prevocalic position. Later, other restrictions came to reduce even more the contexts in which these consonants could appear, so much so that liaison today occurs far less than it used to (but probably more than tomorrow). (Tranel 1987: 169)

これは本稿の出発点である。Tranel の説明をもう少し詳しく見ることにしよう。その内容からリエゾンの歴史には少なくとも 3 つの大きな進化段階があったと考えられる。

まず第 1 は、子音で始まる単語が後続するときに語末子音が脱落した時期である。第 2 の時期は、休止の前で語末子音が脱落する時期であった。そして第 3 の時期として、リエゾンが現れる音的文脈がしだいに制限されていく時期である。

しかしながら、もっと重要なことであり、かつリエゾンの研究において十分に認識しておくべきこととして、リエゾンは上の記述からもわかるように、すでに完了してしまった言語事象ではなく、現在もその変化が継続しているということである。発生論的な観点から言うならば、第 1 と第 2 の進化段階が 12 世紀から 16 世紀にかけて生じたことから、17

世紀以降にフランス語のリエゾンが成立したと考えられる。リエゾンが確立するのに最も重要な時期は 17 世紀であった。

リエゾンはいわゆる連声（サンディー）の一種である。そこで上のような歴史的観点あるいは発生的観点からではなく、連声という観点から見てみると、フランス語のリエゾンおよびこれに類似する現象は、おおよそ次の 3 つのタイプに分類できるであろう。¹

1. 「子音脱落」は、休止前で発音されていた語末音が、子音の前で脱落する現象を言う。たとえば数詞 *six* の休止前の形[*sis*]が、子音の前で[*si*]になる場合である。
2. 「リエゾン」は、休止前では発音されない語末音が、母音の前で発音されるようになる現象を言う。たとえば数詞 *deux* の休止前の形[*dø*]が、母音の前で[*døz*]になるような場合である。

この第 2 のタイプはさらに少なくとも 4 つの下位タイプに分かれる。

2.1. 独立型

上の *deux* のようなタイプであり、この場合 *deux* は単独で発話を構成することができる。

2.2. 屈折型

独立型のリエゾンには、上の *deux* のタイプ以外に、屈折変化を表すタイプがある。たとえば形容詞 *petit* [pti] のリエゾン形[pti]は語幹の一部が変化したものである。

2.3. 拘束型

代名詞 *en* や所有形容詞 *mon* のように、単独で発話を構成することがない形態を言う。

2.4. 形態素型

定冠詞 *les* や三人称を表す *-t* は拘束形であるだけでなく、[lez]の語末子音 *-z* が複数を表し、*c'est*[sɛt]の *-t* は三人称を表わす。

3. 「子音添加」のタイプは、*il a* が倒置されるときに **a-il* ではなく、*a-t-il* となり、子音 *-t* が添加される現象を言う。

本稿では、2 のいわゆる「リエゾン」だけでなく、1 および 3 を含む、広い意味での「連声」現象について、18 世紀初頭に執筆された *Gile Vaudelin* の 2 つの文献を詳細に調べ、リエゾンが歴史的発展の中でどのような段階に位置づけられているのかを分析する。

2. *Gile Vaudelin*

本稿では *Gile Vaudelin* の以下の 2 書を詳細に分析する。

¹ この分類については *Morin (1986)* を参照。

Nouvelle manière d'écrire comme on parle en France, 1713, Paris: Chez La Veuve de Jean Cot et Jean-Baptiste Lamesle, Slatkine Reprints, 33p. (以下では NM と略す。)

Instructions crétiennes, mises en ortographe naturelle, pour faciliter au peuple la lecture de la Sience du salut, 1715, Paris: Chez Jean-Baptiste Lamesle, Slatkine Reprints, 247p. (以下では IC と略す。)

Vaudelin の著作は 17・18 世紀フランス語の音声研究にとって欠くことのできない書であり、Cohen (1946) は同書を分析した最初の研究である。これまで Vaudelin の著作は様々な論文や研究書で引用されてきた。最近では Krier (1993) の論文がある。Vaudelin 自身と著作については Cohen (1946) の AVANT-PROPOS に詳しいのでそちらを参照されたい。Cohen の研究はこれまでに行われた最も詳細な Vaudelin の綴り字分析である。しかしながらそれは 60 年前という時代的制約もあり、Vaudelin の著作をデータベース化し、徹底的な分析を行ったというわけではない。どちらかと言えば、規則的な部分よりも、綴り字の特異な部分、言語学的に注目すべき点に力点が置かれていると言える。したがってリエゾンの綴り字については、様々な部分で散発的に記述されているため、Cohen の著作から現象の全体像を読み解くことはかなり困難であると言える。筆者はリエゾン現象の全体像を知るには Vaudelin の 2 つの著作をデータ化し、それを網羅的に分析する必要があると感じ、本稿を執筆するに至った。

ところで、Vaudelin の著作の目的は、そのタイトルが示すように、「フランスにおいて話されているようにフランス語を書くための新たな方法 NOUVELLE MANIERE D'ECRIRE COMME ON PARLE EN FRANCE」を考案することであった。彼の方法には次の 3 つの原則がある。

1. フランス語は本質的に異なっている 29 の単音で構成される。
2. 個々の単音は、常に固くかつ単独の文字によって表されなければならない。
3. 旧来のアルファベットにおいて良いものは保持されるほうが合理的である。(...) ²

こうして Vaudelin は次頁の図にあるような 29 個の新しいアルファベットを考案した。そのうち旧来のアルファベットを改良して 8 つの新しい文字が作られている。

上段は 13 の母音を表す。2 つの母音が 1 つの音節の中で統合して発音するものを二重母音 *Diphthongue* と呼ぶ。たとえば *Di-eu*, *lui*, *bi-in* などである。中央と下段は 16 個の子音 (*c.g.h.j.n.l.r.z.s.d.t.v.f.p.b.m.*) を表す。 ³

² (...) *premierement* il faut bien observer que la Langue François est toute composés des 29. Sons simples & essentiellement différents, qui finissent ces 29. mots François bien prononcés, & qui sont marqués par de grandes Lettres. (...) *montrA. rubAN. parfAlit. bontE'. divlN. unI. modE. brunO. moutON. jEU. chacUN. coucOU. menU. piQUe. lanGUe. poCHe. anGe. uNe. belLe. gloiRe. onZe. bourSe. monDe. trenTe. oliVe. étoFe. naPe. colomBe. daMe.*

Secondement, il faut que chaque Son simple de la parole soit *feul* & *toujours* representé par la Lettre propre & simple. (...) *Troisiétement*, est-il rien de plus raisonnable que de conferver tout ce qu'il y a de bon dans l'Alphabet vulgaire; (...) NM, pp.2-3.

³ NM, p.7.

ALPHABET NOUVEAU.

a. an. ai. é. in. i. e. o. on. eu. un. ou u. valeur.
A. A. A. E. I. I. E. O. O. E. U. O. U. } figures.
a. a. a. e. i. i. e. o. o. e. u. o. u. }

que. gue. che. je. ne. le. re. ze. se. de. te. valeur.
C. G. H. J. N. L. R. Z. S. D. T } figures.
c. g. h. j. n. l. r. z. f. d. t. }

ve. fe. pe. be. me. valeur.
V. F. P. B. M. } figures.
v. f. p. b. m. }

図1 Vaudelin (1713) の新アルファベット (NM. p.4)

Vaudelinによると、母音字は「意味の文字 *lettres de signification*」であり、語にとって欠くことのできないもので、母音字を1つでも取り去ると語の意味は分からなくなる。これに対して、語末の子音字は「発音の文字 *lettre de prononciation*」であり、単語の意味に役に立つことはなく、2つの母音が接触することを回避し発音を和らげるという。⁴そして本稿のテーマに関係する以下の例を挙げている。

dont l'une finit le mot précédent, & l'autre commence le mot suivant, comme n.l.t.z.c...
dans un ami. il âit un bon anfan.... MN, p.10.

前の語の最後にくる母音と次にくる語の最初の母音が衝突しないように、n, l, t, z, c...などの子音を発音する。子音と休止の前については言及していないため、このくだりが連声現象全体を記述しているわけではない。しかし語末子音が発音され、子音が後続の母音と音節を形成する、すなわちリエゾンが起きていることは、この説明から明らかである。

Vaudelin の新アルファベット表記で注目すべきは、長母音に関する記述であろう。

[] Qu'en lifant, il faut élever & prolonger la *voyelle* un peu plus que les autres voyelles qui n'ont point d'accent, (...)

⁴ NM, p.10.

[˘] 読むときに、アクセントを持っていない他の母音よりも、その母音を少し高くかつ長くすること、(...) NM. p.13

Vaudelin が新アルファベットを用いて執筆した2つの文献、NM と IC を詳細に分析するため、本稿では以下のような手続きをとった。まず2文献をできるだけ特殊文字を用いない形で転写した。転写の詳細ここでは触れない。以下にその実例を掲げておく。こうして転写されたテキストを AntConc 3.2.1w を用いて分析した。

Reflaciq.

1. Si d'Ecrire ôtrma ce l'ô Parl a
Fras, i n'an ariva ce peç ô ce de pûz
icoveniâ; e si l'ô ne s'a plainieai po-i
partô, e dpui lq-ta, parfon n'ora
jama pafe a la Reform del'Ortograf
Frafaz.

図2 テキスト例 NM. p.17

Rflaicson.

1. Si d'Ecrire ôtrman ce l'on Parl an
Frans, i n'ann arivai ce peu ou de pûz
inconveniân; e si l'on ne s'an plainieai po-in
partou, e dpui lon-tan, pairson n'orai
jamai panse a la Reform de l'Ortograf
Fransâiz.

本稿での転写

3. NM と IC の分析結果

3.1. 動詞

3.1.1. 動詞 avoir

複合過去形の助動詞として用いられた2人称複数形のリエゾン形 *avez* は1例だけみつかると。e de grâs ce vouz i *avez atahê* = et de grâce que vous y avez attachée (IC, p.49) ⁵

一方、母音で始まる単語の直前に置かれているのに、リエゾン形 *avez* ではなく、*ave* と綴られた例は合計6例みつかると。資料1を参照。2人称複数形の場合、3人称複数形の場合、複合過去形の助動詞として用いられたリエゾン形 *ont* が8例あり、さらに *ont une*, *ont aujourd'hui* の表記も3例みつかると。資料の2と3を参照。

したがって、2人称複数形の *avez/ave* と3人称複数形 *ont/on* が決定的に異なっているのは、後者の場合、母音で始まっている単語の直前に置かれると必ずリエゾン形 *ont* になっている点である。

⁵ 本分析では、Gile Vaudelin の二つの文献を特殊文字フォントを用いない ASCII 文字として電子化したコーパスを分析した。

表1 動詞 avoir のリエゾン形

	リエゾン形 avez	非リエゾン形 ave
2 人称複数	1 例	6 例
	リエゾン形 ont	非リエゾン形 on
3 人称複数	11 例	なし

表1は、母音で始まる単語の直前に置かれた動詞 avoir の2人称複数形と3人称複数形の出現数を示している。Gile Vaudelin の音声表記では、動詞 avoir について言うと、明らかに-tのリエゾン形が -zのそれよりも頻繁に用いられていることがわかる。ここでは助動詞 avoir に過去分詞が後続する。そのため avez と ont 形は独立型リエゾンというよりも、むしろ拘束型リエゾンと考えることができる。この場合に ont 形を avez 形と弁別するのは-tが果たしている3人称の形態素的機能ではないかと推論できる。形態素的機能が高ければそれだけリエゾンが起こりやすいことは次の例からも明らかである。

avoir が倒置疑問文になると現れるリエゾンの -t- は、今日と同じように例外がない。この子音添加は単なる子音-tの添加ではなく、同時に3人称形態素の明示でもある。詳細については資料3~5を参照。

表2 動詞 avoir の3人称形と倒置疑問

	at-il = a-t-il	at-ail = a-t-elle	at-on = a-t-on
3 人称単数	34 例	3 例	4 例
	ont-i = ont-ils	ont-ail = ont-elles	
3 人称複数	2 例	なし	

Cohen もすでに指摘しているが、⁶ avoir の半過去形が母音で始まる単語の前に現れる例はない。リエゾンの -t- に関しては、表2のように、3人称単数形が倒置疑問の文脈にしか現れない。一方3人称複数形は倒置疑問だけでなく、母音で始まる単語の前に置かれるとリエゾン形 ont をとる。

Pars c'ail ont eun mâim divinite IC, p.83. = Parce qu'elles ont une même divinité
 S'âit an se c'il ont eun sosiete e IC, p.91. = C'est en ce qu'ils ont une société et
 c'il ont ojourd'ui NM, p.23 = qu'ils ont aujourd'hui.

3 人称単数形は母音で始まる単語の前に置かれたからといってリエゾン形 *at にならない。図3は動詞 avoir の現在形3人称単数の非リエゾン形 a がどのような単語の前に現れるかを示したものである。

⁶ Cohen (1946) §21, p.26.

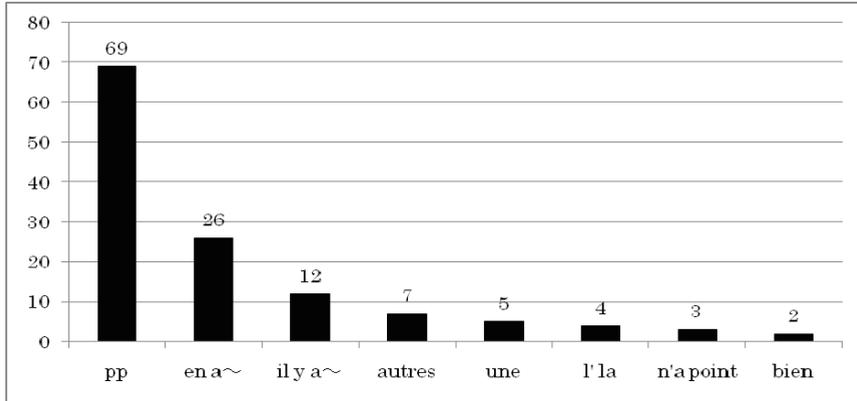


図3 動詞 avoir の現在 3 人称単数非リエゾン形 a の分布

最も頻繁に現れるのは a été や a profité のように過去分詞形の直前である。2 番目と 3 番目に多いのは il y en a や il y a の構文であり、われわれの直観に近い結果となっている。avoir の現在 3 人称単数形は 128 例あるが、その中に a が母音で始まる単語の前に現れる例が 7 例ある。資料 6 を参照。

3.1.2. 動詞 être

動詞 être のリエゾン形も動詞 avoir と同じように数多く見られる。なかでも以下の綴り字は、c'est une がリエゾン形であることを如実に示す例と言えるであろう。

Sâiteun priar do Not-Sainieŕ lui-
mâm â l'Oteur, e c'i nòz a aŕfanieë.

Sâiteun priair don Not-Sainieeur lui-mâm âi l'Oteur, e c'i nouz a ansainieë.

= C'est une prière dont Notre-Seigneur lui-même est l'auteur, et qu'il nous a enseignée. IC, p.138

Vaudelin はこの部分で Sâiteun と分かち書きせず、ひと続きの単語として記している。同じ綴り字は全部で 17 回出てくるが、この箇所以外ではいずれも Sâit eun という風に分かち書きしているので、上記の箇所だけが偶然にこのように記載されたのかもしれない。いずれにしても、リエゾン形が分かち書きされずに表記されることがあったことは心理言語学的現象としても興味深い。

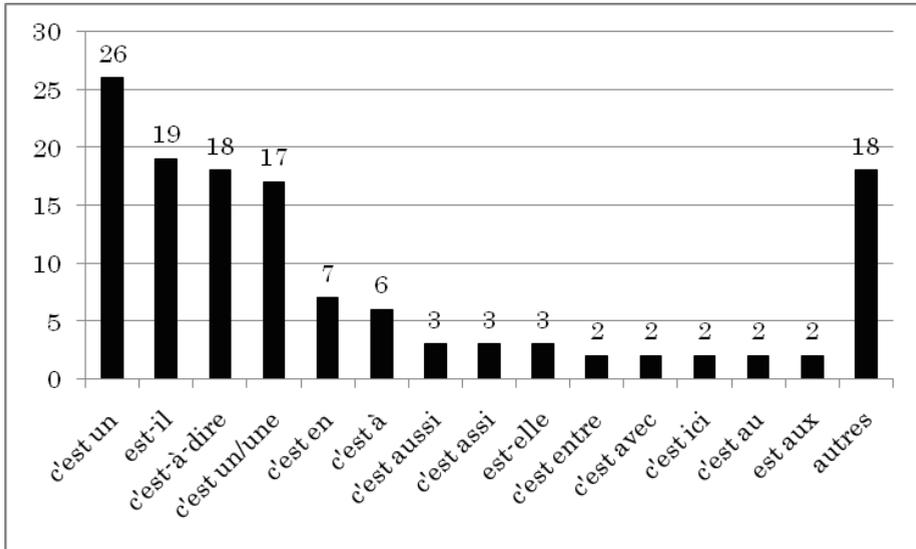


図4 動詞 être の現在 3 人称単数リエゾン形 est の分布⁷

Durand et Lyche の PFC コーパスに基づく調査では、c'est 構文は全体の 30% しかリエゾンが起きていない。⁸ これに比べて Vaudelin の文献では、c'est は今日よりもはるかに規則的にリエゾンをしているようである。図4 参照。しかし、母音で始まる単語の直前で c'est が非リエゾン形をとる例が 1 例だけ見られた。

Pourcoai dit-vou ce s'âi eun esprit? IC, p.81.
= Pourquoi dites-vous que c'est un esprit?

c'est に非リエゾン形が少ないということは、やはり前にも述べたように-t は拘束形でありながら、3 人称を表示する形態素型リエゾンであるからと考えられよう。半過去 3 人称単数形の場合はリエゾン形と非リエゾン形がそれぞれ 1 例ずつ見つかる。

s'âit a dir du mi-eu c'il aitait alôr posibl. NM, p.31.
= c'est-à-dire du mieux qu'il était alors possible.
(si dâija ail n'aitâi a l'Otail) e IC, p.40.
= (si déjà elle n'était à l'autel) et

接続法の 3 人称単数形は 6 例みつかるが、いずれも Ainsi soit-il という慣用句においてであった。Insi so-a t-i あるいは Insi so-ai t-i と綴られる。命令形もリエゾンの例が 2 つある。

Saiiez-an beni a jamâi, IC, p.66. = Soyez-en béni à jamais,

⁷ Vaudelin の書記法では eun は不定冠詞男性形 un と女性形 une の両方に解釈可能である。グラフでは c'est un と c'est une をまとめて集計した。(Ints. p.55)

⁸ Durand et Lyche (2008) p.46.

Saiez osi dan sa bouh e dan son cœur IC, p.64.

= Soyez aussi dans sa bouche et dans son cœur

3人称複数の現在形は13例みつかると。このうち倒置疑問形 *sont-i = sont-ils* が5例, *sont-ail = sont-elles* が3例あり, 残りはすべて1例である。⁹ いずれにしても重要なことは, 母音で始まる単語の前では, 例外なく, すべてリエゾン形 *sont* になっていることである。条件法3人称複数形でも, 倒置疑問文が2例, 他のリエゾン形が1例みつかると。これらのことから *-t* 形は, 形態素型リエゾンであると考えられる。

De bon foa *srait-i* just, *srait-i* onorabl ô Zelateur de la gloair de not Lang, NM, p.25.

= De bonne foi serait-il juste, serait-il honorable aux zélateurs de la gloire de notre langue

ce le Misionair e le Pôvr an *srâit âiz*, e NM, p.25.

= que les missionnaires et les pauvres en seraient aises, et

総じて, 形態素型リエゾンの重みづけは大きかったと思われる。他の動詞について調べてみても同じことが言える。

3.1.3. 他の動詞

他の動詞の現在形3人称単数では, 25例のリエゾン形 *-t-* の挿入が観察された。*paiht-on = pêche-t-on* が9例, *apait-on / apait-ail = appelle-t-on / appelle-t-elle* が4例, *ofrt-on / ofrt-ail = offre-t-on / offre-t-elle* が3例, *dont-ail = donne-t-elle* が2例, 他はすべて1例であった。¹⁰ 一方, 動詞語尾 *-t* のリエゾンする例も74例みつかると。このうち *doait-on = doit-on*, *fôt-i = fait-il*, *peut-on* のような倒置疑問文は全体の67.6%を占める。これに対して, 非倒置疑問文でのリエゾンは24例あった。詳細は資料7を参照。

どのような動詞がどのような後続要素とリエゾンしているのかを詳細に見てみよう。表3からわかるように, 出現形には大きな偏りがあり, *falloir*, *pouvoir*, *devoir* の3つの動詞だけでリエゾン形全体の83.3%を構成する。

表3 動詞の種類とリエゾン

<i>fôt = faut</i>	11例	<i>fôdrait = faudrait</i>	1例
<i>peut</i>	6例	<i>refit = refit</i>	1例
<i>doait = doit</i>	3例	<i>resusit = ressuscite</i>	1例
<i>font</i>	1例		

⁹ *sont aplê = sont appelées*, *sont egal = sont égales*, *sont imposê = sont imposées*, *sont inprime = sont imprimés*, *se sont ofair = se sont offerts* である。

¹⁰ *adort on = adore-t-on*, *frapt-i = frappe-t-il*, *justifit-ail = justifie-t-elle*, *raistt-i = reste-t-il*, *regardt-i = regarde-t-il*, *rsoaivt-i = reçoit-t-il*, *santifit-ail = sanctifie-t-elle*。

同じく、表4によればリエゾン形 -t に後続する語の現れにも偏りがあることがわかる。動詞 avoir と être, さらに encore と au で全体の 79.2%を占めているからである。

表4 リエゾン形-tに後続する語

avoir = avoir	6 例	antr = entre	1 例
âitr = être	6 例	aple = appeler	1 例
ancor = encore	5 例	i = y	1 例
o = au	2 例	ojurdui = aujourd'hui	1 例
ansanbl = ensemble	1 例		

ただし *peut* が avoir と, *doit* が前置詞 à とリエゾンしない例が 3 例見つかる。

Pars ce riin ne li *peu âitr* cahe, = Parce que rien ne lui peut être caché, IC, p.82.

Peut-i âitr suplee? Oui, i le *peu âitr* dan lez Anfan par le martir;

= Peut-il être suppléé? Oui, il le peut être dans les enfants par le martyr; IC, p.98.

S'âit eun reparasion ce l'on *doai* a Dieu, IC, p.112.

= C'est une réparation que l'on doit à Dieu,

しかしこれらは明らかに例外的な現れであって、18 世紀初頭の Vaudelin の証拠からは、3 人称単数の形態素を表示するリエゾンはかなり重要視されていたように思える。一方、動詞 faire の活用形 fait ではリエゾンが全く起きないことがわかる。

e ci nou *fai anfan* de Dieu e de l'Eglîz.

= et qui nous fait enfant de Dieu et de l'Eglise. IC, p.34.

e ci nou *fai anfan* de Dieu e de l'Eglîz.

= et qui nous fait enfant de Dieu et de l'Eglise. IC, p.97.

e par l'oncsion c'i *fai avai* le Crâim su le fron de la pairson ... IC, p.100.

= et par l'onction qui y fait avec le crème sur le front de la personne...

d'Ecrire frecaman l'Apostrof ' o bou de Mo ou se *fai Elizion* de la Voail e, NM, p.16.

= d'écrire fréquemment l'apostrophe ' au bout de mot où se fait élision de la voyelle et,

e cant il âit arive i *fai eun inclinasion* o Prâitr, IC, p.46.

= et quand il est arrivé il fait une inclination au prêtre,

2 人称単数形および複数形, 1 人称複数形におけるリエゾンも数は少ないが見つかる。例は資料 8 を参照。

3.2. 代名詞

3.2.1. 代名詞 nous / vous

どのような要素とリエゾンを起こしているかは以下の表5でわかる。nous と vous は、それが主語形であれ、目的語形であれ、母音の前では必ずリエゾンを起こす。唯一の例外は倒置した主語の場合である。

fait-li conaitr avai simplisite e tne vou avaic umilite a se c'il ordon. IC, p.66.

= *fait-lui connaître avec simplicité et tenez-vous avec humilité à ce qu'il ordonne.*

さらに詳しくみてみよう。まず nous であるが、リエゾンしている主語形は 20 例あった。そのうち nous avon が 6 例、他の組み合わせはすべて 1 例しかない。目的語形は全部で 59 例みつかると。このうち nous a と nous oblij がそれぞれ 15 例と 11 例あったが、他はすべて 1～2 例である。次に vous は、主語形が 48 例ある中で、vous âit が 19 例と突出しており、vous i が 5 例で、後はすべて 1～2 例であった。目的語形は 51 例あったが、その組み合わせは様々であった。

表5 代名詞 nous / vous のリエゾン形

主語 nous	全 20 例	目的語 nous	全 59 例
nous avon = nous avons	6	nous a = nous a	15
		nous oblij = nous oblige	11

主語 vous	全 48 例		
vous âit / vous ait = vous êtes	19	vous i = vous y	5

目的語 vous	全 51 例		
vous aim / vous âim = vous aime	9	vous ofron = vous offrons	4
vous ador = vous adore	5	vous aime = vous aimer	3
vous e = vous ai	5	vous ofr = offre	3
vous an = vous en	4	vous âitr = vous être	3

3.2.2. 代名詞 il, ils / elle, elles / on

本稿の冒頭で述べたように、リエゾンが生起する前提として、語末子音の脱落が起きないなければならない。代名詞 3 人称男性形の il は、現代フランス語においてもそうであるが、語末-l の脱落した形がしばしば現れる。18 世紀の初頭においても il と i は競合していた。しかし、さらに詳しく調べてみると、表6から明らかのように、出現数の高い単語では il と i が相補的な分布をなしていることがわかる。すなわち、il 形は母音で始まる語の前に現れ、i 形は子音で始まる語の前に置かれる。

とりわけ注目すべきは、i 形は全部で 59 例あるが、その全てが子音で始まる語の前で用いられ、母音の前に現れる例は 1 例もない。したがって先に述べた *nous* や *vous* と同じように、代名詞 *il* は子音の前では語末の -l が脱落して i 形になり、母音で始まる単語の直前ではリエゾンの -l が現れて *il* 形をとると解釈することができる。

表 6 代名詞 *il*

主語 <i>il</i>	全 101 例			主語 <i>i</i>	全 59 例		
<i>il i ann a = il y en a</i>	22	<i>il âit = il est</i>	9	<i>i fo = il faut</i>	28	<i>i ne = il ne</i>	6
<i>il âi = il est</i>	19	<i>il i a = il y a</i>	6	<i>i nou = il nous</i>	20	<i>i se = il se</i>	3
<i>il a</i>	10						

101 例の 1 割にあたる 10 例において、子音で始まる語の直前にもかかわらず、代名詞が *il* 形となった例が存在する。資料 9 に全ての例を挙げておいた。さらに興味深いことに、Vaudelin は NM の中で *il sra = il sera* と記しているが、2 年後に執筆した IC では、同じ表現を *i sra* と綴っている。また IC では同一ページの中で *il pās* が *i pās* とともに現れる。Livet は Claude de Saint-Lien による 16 世紀のフランス語音声学に関する記述を引用して、宮廷人たちは *il vient* や *ils disent* の -l を発音しなかったと書いている。こうした *il/i* の変異は社会言語学的な変異であったのかもしれない。¹¹

e pars c' il sra toujou vrai de dir, NM, p.23.

= *et parce qu'il sera toujours vrai de dire,*

e lez ôtr calite glorieuz dont i sra rvaitu an resusitan. IC, p.136.

= *et les autres qualités glorieuses dont il sera revêtu en resuscitant.*

e s' il pās dvan le Sin Sacrman i fai la reverans. IC, p.40.

= *et s'il passe devant le Saint Sacrement, i fait la révérence.*

I fai toujou la reverans lôr c' i pās dvan l' Otail. IC, p.40.

= *Il fait toujours la révérence lors qu'il passe devant l'autel.*

代名詞 *il* の語末子音 -l がリエゾンの子音と考えるならば、3 人称複数形 *ils* がリエゾンを起こすときには、リエゾン子音である -z の直前で -l が脱落する筈である。実際に Vaudelin が用いている形態を調べてみると、*ils* は *iz = ils* 形となっている例があり、上記の推論は正しいことがわかる。ただし p.124 の例 *il ont, ail ont* も参照。

(Lizan d'eu-mâim e san dificulte) îz aprandron l. se c' i fo... NM, p.33.

= *(Lisant d'eux-même et sans difficulté) ils apprendront l. ce qu'il faut...*

¹¹ Livet (1859 (1967)) p.503.

resusitron avai le mâim côr c'îz oront u an ste ví, IC, p.93.

= resusciteront avec le même corps qu'ils auront eu en cette vie,

par ceur, ou c'îz oublî incontinan; NM, p.32.

= par cœur, ou qu'ils oublient incontinent;

S'âi pour leu dmande c'îz unis leu priair avai le nôtr. IC, p.109.

= C'est pour leur demander qu'ils unissent leur prière avec le nôtre.

c'î s'âi prive de l'antrê de l'Eglîz jusc'a se cîz âi satisfai a se Comandman; IC, p.132.

= qu'il s'est privé de l'entrée de l'Eglise jusqu'à ce qu'ils aient satisfait à ses comandements;

語末の -I のこうした脱落は代名詞 3 人称女性形 *elle/elles* にはまったく見られない。子音の前であろうと母音の前であろうと, *ail = elle/elles* は常に語末に -I を伴っている。

最後に代名詞 *on* は, 全部で 81 例あるが, そのうち子音の前で現れる 73 例は *on* 形になり, 母音の前の 8 例はすべて *onn* と綴られている。資料 10 を参照。以上のように, 主語人称代名詞や目的語人称代名詞のような, それ自身が単独で発話を構成することのない語が母音の前に置かれるときのリエゾン, いわゆる拘束型リエゾンは 18 世紀初頭にはほぼ例外なく実現されていたことがわかる。

3.2.3. 誤ったリエゾン形 *leurs*

誤ったリエゾンについては Thurot が文法家 Hindret の説明を引用している。Hindret によると, パリの人や宮廷人の間では, *il leur a dit* と言うかわりに, *il leurs a dit* と言う者がいるという。もちろん Hindret 自身は, *je leuz ai dit* や *je leurz ai dit* といった発音を非難している。¹² これと同じ誤ったリエゾン形 *leuz* は 8 例にみつかると。

ce je *leuz ansainie*. 5. Lôrc pour se done de grand comodite NM, p.19.

= que je leur enseigne. 5. Lorsque pour se donner de grande commodité

ce le Misionair e le Pôvr an srâit âiz, e *leuz an sorâi bon gre!* NM, p.25.

= que les missionnaires et les pauvres en seraient aise et leur en sauraient bon gré!

ce Mesieu le Cure ne peuv *leuz aprandr* par ceur, NM, p.31.

= que Messieurs les curés ne peuvent leur apprendre par cœur,

un comairs de priair, ce nou *leuz adraison*, IC, p.92.

- une commerce de prière, que nous leur adressons,

Pour loue e rmairsie Dieu de victoair c'i *leuz a fai* ranporte par sa grâs, IC, p.108.

= Pour louer et remercier Dieu de victoire qu'il leur a fait remporter par sa grâce,

nou ne *leuz adraison* pa no priair, IC, p.122.

= nous ne leur adressons pas nos prières,

¹² Thurot (1881) pp.38-39.

de le respaicte, de *leuz obei*, e de lez asiste dan le bzoin. IC, p.125.

= de les respecter, de leur obéir, et de les assister dans le besoin.

Pars ce pluzieur de Laitr Latin ne consairv pa toujou

le Son ci *leuz âi* naturail, IC, p.142.

= Parce que plusieurs de lettres latines ne conservent pas toujours

le son qui leur est naturel.

Krier は Thurot の解説を引用しつつ、これらの場合に Vaudelin は当時のパリ市民や宮廷人の発音習慣に従っただけであると説明している。¹³ 仮に Krier の推論が正しいとすれば、なぜ同じような誤ったリエゾンが数詞 *quatre* や *cent* で見られないのであろうか(2.6.2.を参照)。またすぐ上の節で見たように、代名詞 *on* には誤ったリエゾン形 *onz* がない。Krier の推論ではこうした理由を説明できない。確かにリエゾン形-z が現れるのは、*leur* の意味によるところが大きいであろう。さらに 3.3.3.の所有形容詞 *leurs* も参照。しかし *leur* にだけ *leuz* 形が見られるのは *leur* に特有の条件があるのではないか。筆者はこの形態が存在する条件を意味論的な条件以外にもあると考えたい。

Livet は 16 世紀の文法家 Théodore de Bèze の音声記述を取りあげて次のように書いている。「パリの人々、またオセールの人々、さらに筆者の故郷ヴェズレの人々は、しばしば *s* を *r* に、*r* を *s* に変えて、*cousin*, *Marie*, *pere*, *mere*, *Theodore* のかわりに、*courin*, *Masie*, *pese*, *mese*, *Théodose* と言う。」¹⁴ これと同じ理由によって、*leur aprandr* の場合、後続する母音により母音間の -r- が -z- に変わって *leuz aprandr* となったのではないだろうか。

3.2.4. 代名詞 *en*, *dont*, *rien*

代名詞 *en* のリエゾンは 59 例みつかるが、その半数は *il i ann a = il y en a* であり、他の組み合わせは、どれも 3 例に満たない。そのような状況で、1 例だけであるが、IC の 85 ページに、*i n'i an a = il n'y en a* という綴り字が出てくる。これは *an* の文字の後に -n を書き忘れたのであろう。

Non, *i n'i an a c'eun seul*, ci âi la Pairson du Fi de Dieu. IC., p.85.

= Non, *il n'y en a qu'une seule*, qui est la personne du fils de Dieu.

Nø, i n'i a a c'èn fei,

これに近い例は同書の 114 ページにもある。下図がそれであるが、明らかに、*on* の後に後から -n を付けたように見える。

¹³ Krier (1993) p.120.

¹⁴ Livet (1859) p.517.

Nō; i fufi d'ātr dajrēzma malad :
 e cat ɔ la rfoa avac u jujma fi e libr,
 ɔ s'i dispoz mię, e ɔⁿ tir plū dē frui.

A cal difpozisiō lā fōt-i rfooar?

Si ɔⁿāt a pehe mortal, i fō se ɔfa-
 fe oparava, cat ɔⁿāt a pōvcar dē lē
 far : e fi ɔ nē lē pē pa, i fō s'ecfite a
 ɔtrifiō, e domade l'absolufiō.

IC, p.114.

Vaudelin は原稿を書いているとき 85 ページの誤りに気づかなかったようである。それを発見したのはおそらく印刷の段階であり、247 ページの ERRATA の中で、85.6. ann a と訂正した。

関係代名詞 dont は、母音で始まる単語の前でリエゾン形 dont が 6 例みられ、子音で始まる単語の前で非リエゾン形 don が 15 回現れる。不定代名詞 rien も同様に、母音の前で 1 例のみリエゾン形 ri-inn = rien になり、子音の前では 12 例が riin あるいは ri-in になる。

ところで、今日ではリエゾンは母音で始まる語の前で生起する単なる音声現象ではなく、形態統語的要因、社会言語学的要因、文体的要因などの様々な要因が絡み合った現象であることは周知の事実である。18 世紀においても、そうした形態統語的要因は重要な役割をはたしていた。たとえば以下の例では rien と il の間に明確な形態統語的境界が存在する。そのためにリエゾンは起きることがないのである。

S'āi ce de riin il a fai tout hōz. = C'est que de rien il a fait toute chose. IC, p.86.

3.3. 冠詞・所有形容詞

3.3.1. 不定冠詞・定冠詞

不定冠詞の男性単数形は右下にヒゲのついた u の文字で表わされる。Vaudelin の文字一覧表 (図 1 参照) によれば、この文字の音価は un である。

i n'i an a c'ū, IC, p.31. = il n'y en a qu'un

Cohen はリエゾン形として NM, p.10 で Vaudelin が説明している un ami を例として挙げているが、Vaudelin はこの綴り字を文中で用いていない。¹⁵ それはともあれ Cohen が言うように母音の前にくる男性単数形は非鼻音化しており、¹⁶ それゆえ unn (すなわち鼻音文字 + n) と綴られるものと考えられる。ただし実際には男性のリエゾン形と女性形は同じ綴り字 eun で記される。¹⁷ 以下の例が男性リエゾン形と女性形の例である。

¹⁵ Toutefois dans NM 10, à propos des liaisons, on lit *ān ami* [un ami], avec voyelle nasale. (Cohen 1946: 39)

¹⁶ Cohen 1946, p.38.

¹⁷ 1 度だけ eune 形が出てくる。Tōu te pehē confaiserā A tou le moinz eune fo-a l'an. = Tous tes péchés confesseras à tout le moins une fois l'an. IC, p.27.

e s'ait eun avantaj c'oceun de Saict, ci son separê d'ail, IC, p.92.
 = et c'est un avantage qu'aucun de sectes, qui sont séparés d'elle,
 Ce fôt-i fàir pour avoair eun conaisans egzact de tôu se pehe? IC, p.111.
 = Que faut-il faire pour avoir une connaissance exacte de tous ses péchés?

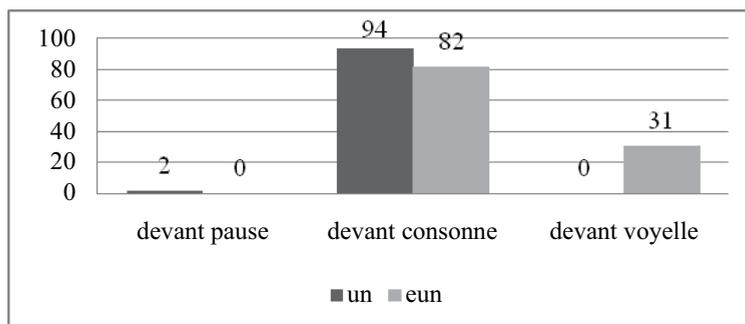


図5 不定冠詞 un, eun 形

このように un 形は母音の前には現れない。一方、休止の前の2例で un 形になる。母音の前では例外なく eun 形となり、*eunn 形はない。

不定冠詞複数形は、子音の前で de, 母音の前でリエゾン形 dez が現れる。定冠詞複数形は子音の前で le, 母音の前でリエゾン形 lez が規則的に現れる。このほか前置詞 à と定冠詞複数形が縮約した形も子音の前で ô (長母音字), 母音の前で oz になる。表7参照。

表7 不定冠詞複数形 des, 定冠詞複数形 les, 縮約形 aux

	de	dez	Le	lez	ô	oz
devant consonne	1077	0	731	0	48	0
devant voyelle	0	25	0	104	0	11

これらの形態はそれ自身が拘束形でありながら、リエゾン形は複数の形態素を表示する形態素型リエゾンである。そのためであろうか、いずれの場合もリエゾンは例外なく実現されている。

3.3.2. 所有形容詞

所有形容詞の単数形 mon, ton, son は子音の前では小文字が **Q**, 大文字は **Q̄** と記載される。ところが母音の前では Cohen も述べているように,¹⁸ 母音は非鼻母音化され今日のように mon, ton, son と書かれる。次のテキストの1行目 Mon Dieu, je vouz offre *mon* âme: からそのことがわかる。

¹⁸ Op.cit., §37, p.52.

M⁰. Die, je vòz ofr mon âme,
cêr, e tò se ce je frê sôfri (IC., p.24)

ただし非鼻母音化を起こさずに鼻母音がそのまま保存され、リエゾンの-n の続く例が3人称の son について2例ある。

& porcoa ne la pa joindr a *sonn Istoair* ci sra toujou si curieuz e toujou bail?
= et pourquoi ne la pas joindre à son histoire qui sera toujours si curieuse et toujours belle?

son Istoar, ci fra NM, p.29.

ou dan sa pairson, ou dan *sonn oneur*, ou dan se biin.
= ou dans sa personne, ou dans son honneur, ou dans ses biens.

ò da son oner, IC, p.112.

もちろん3人称の son にだけ鼻母音化が起きていたとは考えにくい。mon や ton でも同じような鼻母音化の起きる可能性があったと推測するのが自然であろう。

所有形容詞の複数形 mes と ses は規則的である。¹⁹ 子音の前では me と se, 母音の前では mez, sez になる。Vaudelin は1人称単数の所有形容詞の複数形がリエゾンするときの形を mez と綴ることで、後にとりあげる接続詞の mais がリエゾンするときの形 mâiz と区別している。Mez と mâis の表記の違いは母音の開口度の相違、すなわち mez が狭母音で、mâiz が広母音を表すように思われる。しかしながら NM の中に1例だけ、3人称単数の所有形容詞がリエゾンするときの形として saiz と綴った例がある。したがってこの2つの単語が単純に開口度によって弁別されると即断することには躊躇いが残る。

Pars ce saiz *inconvainian* nou pouvon nouz an dispanse osi biin.. NM, OBSERVATION.
= Parce que ses inconvénients nous pouvons nous en dispenser aussi bien...

所有形容詞の nos と vos は規則的で、子音の前では no/nô, vo/vô (一般に複数形のと き nô, vô 形を使用する) となり、母音の前で noz/nôz, voz/vôz と表記される。

3.3.3. 所有形容詞・代名詞 leur, leurs

子音の前では leu 形になる。母音の前では leur と記される。

¹⁹ Vaudelin の文献には tes の例がない。

Prononse st'admirabl Lang vnan a flate e a sgonde *leur ardan* dzir de l'aprandr...
NM, p.27.

= Prononcez cette admirable langue venant à flatter et à seconder
leur ardent désir de l'apprendre

Cail âi la pâin de *leur âm*? IC, p.136.

= Quelle est la peine de leur âme?

Cohen は以下の *lêu* 形を例外的な形であるとし、これは *leu* 形の音色が狭いことを表すためであろうと推論したが、²⁰ この綴り字は *nôz*, *vôz* と同じように名詞が複数形の場合に用いられる綴り字であると考えるほうが合理的なように思える。

Peut-on onore *lêu Rlic*? IC, p.122.

= Peut-on honorer leurs reliques?

ここでも 3 人称単数男性の主語人称代名詞 *il* と同じような現象が起きている。すなわち子音の前では語末の *-r* が脱落した形が現れ、母音の前では *-r* を伴う形になる。複数形でリエゾンするときになると、語末にリエゾンの *-z* が現れるために、今度は語末の *-r* が脱落し、結果として *leuz* という形になる。

pour âitr juje slon *leuz êuvr*. IC, p.93. = pour être jugé selon leurs œuvres.

De done a *leuz anfan* eun educasion cretiain. IC, p.116.

= De donner à leurs enfants une éducation chrétienne.

raporte lez obligasion de pair e de mair anvâir *leuz anfan*; IC, p.125.

= rapporter les obligations de père et de mère envers leurs enfants;

lez obligasion de tou le superieur anvair *leuz inferieur*. IC, p.125.

= les obligations de tous les supérieurs envers leurs inférieurs.

3.4. 前置詞

前置詞 *après* は規則的で、子音の前では *aprai* 形、母音の前で *apraiz* 形が用いられる。前者は 8 例みつきり、後者のリエゾン形は 4 例であった。同様に、*dès* は子音の前で *dâi*、母音の前ではリエゾン形 *dâiz* になる。それぞれ 3 例と 2 例みつかる。*dâi* は 3 例あった。またリエゾン形 *dâiz* の 2 例はいずれも *dès à présent* という慣用句であった。

e j'an fas eun salutair penitans *dâiz a prezan* e duran tou le raist de ma vî. IC, p.60.

= et j'en fasse une salutaire pénitence dès à présent et durant tout le reste de
ma vie.

S'âit a dir ce vou rainieie *dâiz a prezan* dan no cœur... IC, p.138.

= C'est-à-dire que vous régniez dès à présent dans nos cœurs.

²⁰ Cohen, op.cit., §37, p.53.

前置詞 *dans* も結果はよく似ており、子音の前では *dan* に、母音の前で *danz* になる。子音前の *dan* 形は 128 例みつかるが、リエゾン形 *danz* は 3 例のみであり、かつすべて不定冠詞 *un/une* の直前に置かれる。

Tâhe de raple dan vot memoair le tan pairdu *danz eun* lâh oaizivte; IC, p.61.
= Tâchez de rappeler dans votre mémoire le temps perdu dans une lâche oisiveté.
De vivr ansanbl *danz eun* sint sosiete. IC, p.116.
= De vivre ensemble dans une sainte société.
S'âi de maitr son souvrin biin *danz eun* ôtr objai ce Dieu: IC, p.120.
= C'est de mettre son souverain bien dans un autre objet que Dieu:

同じく、前置詞 *sans* は子音の前で *san* に、母音の前で *sanz* になる。前者は 8 例あるが、後者は 3 例のみであった。前置詞 *depuis* は一顧に価する。子音前でこの前置詞は *dpui* の綴り字で 6 例現れる。母音前の例は 1 つもない。ところが子音前であるのに、語末子音 *-s* を保持している例が見つかる。

Je vou remairsi de tout le grâs ce vou m'ave fait *dpuis ce*
vou m'ave cree jusq'a mintnan, IC, p.36.
= Je vous remercie de toutes les grâces que vous m'avez faites depuis que
vous m'avez créé jusqu'à maintenant,

18 世紀の初頭において、語末子音 *-s* の脱落はいまだに完了していなかった可能性がある。こうした推論の正しさをさらに裏付ける例が他にある。前置詞 *avec* である。

今日では語末の *-c* を復権させて用いる前置詞 *avec* は、18 世紀初頭では、子音の前で語末の *-c* が脱落した形態 *avai* が一般的であり、本書でも 68 例みつかる。これに対して、母音の前では、*-c* が保持された形態 *avaic* が 19 例観察される。資料 11 を参照。ところがここでも子音の前であるのに、語末子音 *-c* を保持した例が見つかる。

ou contr la verite, se c'onnn apail parjur; ou *avaic verite*, mâi san nesaisite. IC, p.123.
= ou contre la vérité, ce qu'on appelle parjour ou avec vérité, mais sans nécessité.

3.5. 形容詞, 副詞

3.5.1. 形容詞

形容詞の複数形 *beaux, bons, mauvais(es), petits, saints* は、子音の前でそれぞれ *bô, bon, movai, pti, sin* となり、母音で始まる単語の前では *bôz, bonz, movaiz, ptiz, sinz* になる。また形容詞 *saint* は、子音の前で *sin*、母音の前で *sint* と綴られている。これらは大変規則的である。

他方、形容詞単数形の *bon* は、3.3.2 でみた所有形容詞の単数形 *mon, ton, son* と同様に、*-on* の部分が子音の前で **Q** の文字で表記され、母音の前で *-on* と綴られる。このことからリエゾン位置では、鼻母音 *-on* が非鼻母音化していることがわかる。こうした例は 2 つみつかる。

de mon *bon Anj*, de me Sin Patron e Protacteur, IC, p.24.
= de mon bon ange, de mes saints patrons et protecteurs,
asiste-moai, mon *bon Anj* aide moai. IC, p.60.
= assistez-moi, mon bon ange aidez-moi.

結果として、リエゾン位置の形は、女性形と同じになる。

De *bon foai* srait-i just, srait-i onorabl... NM, p.25.
= De bonne foi serait-il juste, serait-il honorable...
sluici âi confirme d'edifie e de porte partou la *bon odeur* de la piete e
de la vairtu. IC, p.101.
= celui qui est confirmé d'édifier et de porter partout la bonne odeur de la
piété et de la vertu.

形容詞の複数形 *tous* も上記と同じように、子音の前で *tôu*, 母音の前で *tôuz* 形になるが、以下の例では母音の前であるのに語末-z が脱落している。

Oublie-lai *tôu acôz* de vot mizericord e a vû de merit de Jezu-Cr IC, p.63.
= Oubliez-là tous à cause de votre miséricorde et à vue de mérite de Jésus-Christ
S'âit an se c'î profais *tôu eun* mâim foai. IC, p.91.
= C'est en ce qu'il professe tous une même fois.

現代フランス語で同じような現象が起きたときには、しばしば *tôu* が休止を伴っていないか、あるいは後続母音の前に声門閉鎖があるのではないか、などの原因が推測され、実験機器を用いて調べられるわけだが、対象となっている 18 世紀の文献ではそのようなことは不可能である。とはいえ、既に述べたように明確な形態統語的境界があるとき (→ 3.2.4 の *de rien* の例)、あるいは語末子音の脱落が完全に起きてはいないと考えられる例 (→ 3.4 の前置詞 *depuis, avec* を参照) などが観察された。この場合の *tous* では、リエゾン形 *tôuz* と非リエゾン形 *tôu* に進化して行く前に、休止位置で語末子音の-s が脱落する傾向にあったと推論できる。上記の例は *tôus* が独立して発話された例であり、それゆえ語末の-s が潜在的休止の位置で脱落したものと考えられる。単数形 *tout* でもこれに似た例が見つかる。

J'e du l'anplo-aiie *tu a* vou glorifie e... IC, p.36.
= J'ai dû l'employer tout à vous glorifier et...
ou vouz ait *tu a* moai. IC, p.76. = où vous êtes tout à moi.

リエゾン形 *tout* ではなく非リエゾン形 *tu* を母音の前に用いるのは、*tout* が独立して発話されたために、語末子音の-t が休止位置で脱落しているのであろう。

3.5.2. 副詞

副詞の *bien, donc, fort, jamais, très* はそれぞれ子音の前で *biin, don, for, jamâi, trâi* と綴られるのに対して、母音の前で *biinn, donc, fort, jamaiz, trâiz* のようになる。ここまでであれば、原則的に他の場合と同じである。

ところが先ほどの *tous* と同じように、*moins* は母音の直前では、一般に *moinz* あるいは *mo-inz* 形であるのに、語末の *-z* の脱落した *moin* 形になることがある。

Ton Createur rsvrà *o moin* a Pâc unblman? IC, p.131.

= Ton créateur recevra au moins à Pâques humblement.

Pars ce hac Mo doit avoair *o moin* eun Voaiail. IC, OBSERVATION.

= Parce que chaque mot doit avoir au moins une voyelle.

se Confâis e Comunî *o moin* eun foa tou le moâi. IC, p.68.

= se confesse et communie au moins une fois tous les mois.

A confaise *o moin* eun foai l'anê tôu nô pehe... IC, p.131.

= a confessé au moins une fois l'année tous nos péchés.

ci ont atin l'âj de discesion de comunie *o moin* eun foai l'an, IC, p.131.

= qui ont atteint l'âge de discrétion de communier au moins une fois l'an,

Tou te pehe confaisrà *a tou le moin* eun foai l'an: IC, p.131.

= Tous tes péchés confesseras à tout le moins une fois l'an:

上記の例はすべて *au moins* あるいは *à tout le moins* という慣用表現である。この表現の後には休止が続いていると考えればよいのだろうか。ただし註 17 の例も参照。そうとも考えられるが、他の副詞の場合を観察してみると、そんなに簡単に規則化できるような現象ではないように思える。たとえば、否定辞の *pas* は子音の前で *pa*, 母音の前では *paz* 形になる。資料 12 を参照。しかし次のような例が存在する。

Pars-ce hac Conson ci ne presaid *pâ immediatman* eun Voaiail dous port naturailman... NM, OBSERVATION.

= Parce que chaque consonne qui ne précède pas immédiatement une voyelle douce porte naturellement...

母音で始まる *immédiatement* の前で、なぜ否定の *pas* は語末の *-z* を伴っていないのか。*particulièrement* にもリエゾン形のほかに同じような例が見つかる。

リエゾン形

Pourcoai donc âit-ail *particulairmant atribue* o Pair? IC, p.86.

= Pourquoi donc est-elle *particulièrement* attribué au père?

非リエゾン形

Mon Dieu je cra ce vouz ait prezan par tou e *particulairman isi* ou je vouz ador... IC, p.23.

= Mon Dieu je crois que vous êtes présent partout et particulièrement ici où je vous adore...

否定を表す *point* はリエゾンしない。休止前の例が 3 例あり、いずれも *point* と記される。子音前の例も 27 例全てが *point* 形であり、最後に次のような母音前の例が 6 例みつかると。Krier は最後の例を挙げて、リエゾンが起きていないのは 2 つのアクセントグループが存在するためであるとしているが、果たしてこれらの例はそれだけで説明できるのだろうか。²¹

e ne nous induize *point an* tantasion; IC, p.37.

= et ne nous induisez *point* en tentation.

De cail pâin l'Eglîz mnast-ail seu ci ne comuni *point a* Pâc? IC, p.132.

= De quelle peine l'Église menace-t-elle ceux qui ne communie *point* à Pâques ?

Espluce la siziâim; E ne nous induize *point an* tantasion? IC, p.139.

= Expliquez la sixième; Et ne nous induisez *point* en tentation ?

Pars c'i n'a *point u* de comansman, e c'i n'ora jamâi de fin. IC, p.81.

= Parce qu'il n'y a *point* eu de commencement, et qu'il n'i aura jamais de fin.

Oui, i n'a *point u* de comansman, e i n'ora jamâi de fin. IC, p.31.

= Oui, il n'a *point* eu de commencement, et il n'i aura jamais de fin.

Non Insi je crai ce se ne sra *point un* dzonneur ô Fransâi de rsvoair...

IC, OBSERVATION.

= Non ainsi je crois que ce ne sera *point* un deshonneur aux Français de recevoir...

比較を表す *plus* でも、リエゾン形のほかに、非リエゾン形が母音の直前に現れる。

リエゾン形

e ecsite-vou de *pluz an plû* a la contrision. IC, p.66.

= et excitez-vous de *plus en plus* à la contrition.

La tro-aijâim, fair un fairm propô de ne le *pluz ofanse*. IC, p.34.

= La troisième, faire un ferme propos de ne le *plus* offenser.

非リエゾン形

c'î sanbl parvnu *plu o* dgre de pairfaicsion ou î peuv montê. NM, p.23.

= qu'il semble parvenu *plus* au degré de perfection où ils peuvent monter.

e je sui dan la rezolusion de ne le *plû ofanse* moaiiainan sa grâs: IC, p.65.

= et je suis dans la résolution de ne le *plus* offenser moyennant sa grâce.

De *plus en plus* と *plus au degré de...*の違いは、前者が慣用句であること、後者が *plus* の後に潜在的休止が来るなどの理由を想定できるが、*plus offenser* の場合は、それぞれ文脈もほとんど同一であり、単なる自由変異としか考えられない。このように副詞はそれ自身で発話

²¹ (...) das Fehlen der Liaison in NM, p.36: /nə sra poẽ ã dzonœr/ "ne sera point un déshonneur" dürfte sich durch das Vorhandensein von zwei Akzentgruppen erklären lassen.; Krier (1993) p.120.

を形成するしないに関わらずリエゾンの重みづけは大きくないように思われ、Vaudelin の文献ではリエゾン形と非リエゾン形はしばしば自由変異である。

toujours の語末の-s はリエゾンしない。リエゾンの位置で現れる語末子音は-r である。Féraud 1761 の辞書では古い伝統的発音が記載されていた。「*Tou-jou, 1^{re} brève, 2^e longue*」で、語末の-r は無音であったが、Littré 以後、語末の-r は発音されるとしている。²² 副詞 *toujours* では、子音の前で *tojou* 形が 16 例現れ、休止前でも *toujou* 形が 2 例あり、母音の前で *toujour* 形が 6 例みつかると。

mâi toujours an prezans de deuz ou troâi temoin. IC, p.116.

= *mais toujours en présence de deux ou trois témoins.*

Le grô Livr son toujours anui-ieu e rarman tou bon. NM, p.33.

= *Les gros livres sont toujours ennuyeux rarement tous bons.*

fait ce je sai toujours atahe a vo comandman, IC, p.58.

= *faites que je sois toujours attaché à vos commandements.*

Di-eu at-i toujours ete? IC, p.31.

= *Dieu a-t-il toujours été?*

insi ce l'Eglîz l'a toujours obsairve. IC, p.136.

= *ainsi que l'Église l'a toujours observé.*

L'Anploai de hac Laitr simpl a sinifie seul e toujours un son simpl... NM, p.21.

L'emploi de chaque lettre simple à signifier seul et toujours un son simple

しかしながらその一方で、非リエゾン形が母音の直前なのに用いられた例が2つみつかると。

e supôz toujou avaic ail la Voaiiail e. NM, OBSERVATION.

= *et suppose toujours avec elle la voyelle e.*

parc ce Jezu-Cri se trouv toujou o milieu de seu ci s'asanbl... IC, p.39.

= *parce que Jésus-Christ se trouve toujours au milieu de ceux qui s'assemblent...*

3.6. 接続詞、過去分詞、分詞

接続詞 *quand* と *mais* は、子音の前で *can*, *mâi*, 母音の前では *cant*, *mâiz* あるいは *maiz* となる。これに対して接続詞 *et* はリエゾンしない。たとえば下の例では *bon* が鼻母音として表記され、リエゾン子音-n を伴わない。同じような例はほかに 4 例みつかると。

Oui: il âi bon e util d'avoair rcôur a leu priaïr,

= *Oui: il est bon e utile d'avoir recours à leur prière,*

Oi : il ā bō e util d'avoar IC, p.121.

²² Dictionnaire historique de l'orthographe française (1995) p.1038.

接続詞 *et* が先行する語とリエゾンすることはない。

je crai ce vouz ait prezan par tou e particuliairman isi... IC, p.23.

= *je crois que vous êtes présent par tout et particulièrement ici...*

e sairvi an tou, par tou e preferablman a tou, e... IC, p.24.

= *et servir en tout, par tout et préférablement à tout, et...*

現在分詞 *faisant* は休止の前で *fzan* が 1 例、子音の前で 4 例でてくるが、母音の前では 2 例が *fzant*、他の 2 例は *fzan* と綴られており、自由変異と考えられる。

e de Vilajoâi leu fzan ansainie-e st'Alfabai... NM, p.31.

= *et de villageois leur faisant enseigner cet alphabet...*

J'antan c'an se fzan Om, le côr c'il a pri, IC, p.88.

= *J'entends qu'en se faisant homme, les corps qu'il a pris,*

ou an la plonjan, ou an fzan aspairsion sur ail, IC, p.98.

= *ou en la plongeant, ou en faisant aspersion sur elle,*

An fzan injur ô pairson consacré a Dieu. IC, p.123.

= *En faisant injure aux personnes consacrées à Dieu.*

3.7. 数詞

数詞には、子音の前、母音の前、休止の前でそれぞれ異なる形態をもつ語がある。したがって数詞はリエゾンがどのようにして形成されてきたのか、その過程を映す重要な要素と言える。

たとえば *deux* は、子音の前では *dêu/deu* 形に、母音の前ではリエゾン形 *dêuz/deuz* になるが、休止の直前では *deus* という形をとる。

Conbiin i at-i de natur an lui? Il i ann a deus; la natur Divin, e la natur Umain. IC, p.85.

= *Combien y a-t-il de natures en lui? Il y en a deux, la nature divine, et la nature humaine.*

deux の発音はもともと休止の前では *deus* であった。ところが休止の前および子音の前で、この語末-s が消失し、母音の前では音節構造の変化が起きると同時に、語末の-s が-z に有声化する。これによって現代フランス語では子音と休止の前では語末子音を発音しない *deu* 形になり、母音の前で *deuz* 形となった。18 世紀のこの状況は、休止前において *deus* がいまだ残存しており、リエゾン構造が確立する前の古い言語状況を表していると言える。さらにもっと重要なことは、休止位置における語末子音が脱落したときに、リエゾンという現象が生まれたわけではないということである。子音前の形態と母音前の形態が独立して確立された後も、休止前の形態は、ある程度の期間存続していたと考えられる。

ところで Vaudelin の文献では、数詞 *trois* と *six* のリエゾン形 *troais* と *siz* は確かめることができない。しかし両者が休止前で語末子音を保持していたことは以下の例から明らかである。

Conbiin ann at-i? Il i ann a *tro-ais*; IC, p.32.

= Combien en a-t-il? Il y en a trois.

Conbiin at-i de Comandman de l'Eglîz? Il i ann a *sis*. IC, p.130.

= Combien a-t-il de commandements de l'Église? Il y en a six.

six については他に 4 例みつかるとのことから *trois* や *six* はおそらく *deux* と同じように 3 つの異なる形態を持っていたと推測される。²³

語末の *-t* も同じように休止前で保持された。数詞 *sept* は子音の前では *sai* になるが、母音と休止の前では *sait* と綴られた。²⁴

休止の前

Conbi-in i at-i de Sacrman? Il i ann a *sait*. IC, p.33.

= Combien y a-t-il de sacrements? Il y en a sept.

Conbiin i at-i de Sacrman. Il i ann a *sait*. IC, p.96.

= Combien y a-t-il de sacrements? Il y en a sept.

母音の前

e le *sait ôtr* regard le prohin. IC, p.117.

= et les sept autres regardent les prochains.

e l'amour du prohin ranfairm le *sait ôtr*. IC, p.117.

= et l'amour du prochain renferme les sept autres.

語末の *-r* は脱落した形と保持した形が共存していた。数詞 *quatre* は、子音の前で *cat hoz* = *quatre choses*, *cat maniâir* = *quatre manières* のように、語末 *-r* が脱落した形態 *cat* で 4 回出てくるが、一方で *catr* という綴り字が 2 例みられる。

Il i ann a *catr prinsipô*. IC, p.105.

= Il y en a quatre principaux.

Il i ann a *catr prinsipal*. IC, p.115.

= Il y en a quatre principales.²⁵

²³ 数詞 *dix* については休止前の *dis* 形のみ見つかるとのこと。Il i ann a *dis*,...

²⁴ 数詞 *huit* の例はない。

²⁵ 前に出てくる女性名詞 *dispositions* を受ける。

4. 結論にかえて

まず本資料体にほとんど現れないリエゾンがあるので付け加えておく。-g のリエゾンは形容詞 *long* において起きるが、*Vaudelin* の文献には例がない。また-p のリエゾンは *beaucoup* と *trop* において観察される。*Vaudelin* では1例だけみつかると。

d'ou je conclu c'i fôdrait âitr bi-in delica, e trop ainmi de la pairfaicsion, NM, p.19.

= *d'ou je conclus qu'il faudrait être bien délicat, et trop ennemi de la perfection,*

Krierはこのリエゾンが母音接続(イアトス)を避けるために生じたと考える。²⁶ たしかにリエゾンはしばしば母音接続を回避するために生じたのだと論じられる。Morinは数多くの例を挙げて、この説明に反論した。²⁷ そもそも母音接続を回避するという考えは、*il a été, j'ai une..., en haut* など、フランス語に多くの母音接続が存在することと矛盾する。とはいえMorinが指摘するように、*distoire = l'histoire* や *un narbre = un arbre* といった誤ったリエゾンはフランス語の単語を子音で始まる語として獲得しようとする傾向を示すものと考えられるが、これだけでリエゾンの生起理由を説明できるわけではない。

いずれにせよリエゾンが生起する前提として、子音で始まる語の前で語末子音が消失したことは紛れもない事実である。語末子音の脱落に関しては、1. 範列的規則化が生じたことによるとする説、2. いくつかの社会方言は語末子音を保持するため、脱落は異なる社会方言における進化だとする説、3. 脱落は文字における現象であり、実際には発音していたとする説、4. 語末子音の綴り字が様々に変化するのは発音の変異を表しているとする説などがある。

本稿では最初に連声とリエゾンの関連性について述べた。その関連性をもとに *Vaudelin* の文献から得られた証拠を整理し直してみよう。

まず「子音脱落」は、18世紀初頭においても完了していない。たとえば-s, -tのような有声・無声の対立項をもつ子音は脱落が完了しているが、たとえば-c(= -k)には *avaic* の例外があった。3.4.前置詞を参照。一方、有声・無声の対立項を持たない子音は脱落していない。人称代名詞 *il* や副詞 *toujours* は、子音で始まる語の前で-l や-r を保持している例がみつかると。さらに数詞の場合、*deux* が子音の前で *deu*, 休止の前で *deus*, 母音の前で *deuz* 形をとることから、休止前でも子音脱落が起きていない。これらのことから、一般に言われるように、「リエゾンが生起する前提として、子音および休止の前で語末子音が脱落しなければならない」という仮説は成り立たないように思える。²⁸ すべての音声変化が大方そうであるように、変化が及ぶスピードはすべての語彙で同じではないからである。

次に、「子音添加」は18世紀初頭において例外なく起きていた。3.1.動詞 *avoir* を参照。子音-tの添加がこのように規則的であったのは、それが音声現象というだけでなく、-tには3人称の形態素を明示する機能があったからであろう。

最後に「リエゾン」についてであるが、拘束型リエゾンはおそらく規則的かつ迅速にリ

²⁶ (...) durch die sich ein unangenehmer Hiatus vermeiden läßt.”, Krier (1993) p.120.

²⁷ Morin (2005)のこと。

²⁸ 休止前での子音脱落をリエゾンの条件とする Klausenburger (1984)の考えに Morin も異を唱えている。Morin (2005) p.301.

エゾンが実現したようである。人称代名詞、代名詞 *en*、冠詞類、前置詞におけるリエゾンがその典型である。拘束型は、人称代名詞 *nous* や *vous*、冠詞 *des* や *les* のように、リエゾン形が複数の形態素を表示するときに最も規則的に生じる。他方、動詞ではリエゾン形が3人称の形態素を表示するときに規則的にリエゾンが生じた。形態素型リエゾンは最も規則性が高く、次に拘束型リエゾンが高い。逆に言えば、リエゾンの起きる語が単独で発話を構成するような独立型リエゾンは最も規則性が低い。単独で発話を構成するとは、要素が休止の前に出現することと同義である。副詞の *tout*、*pas*、*moins*、*plus*、*toujours* 等が独立型に近いと言えよう。興味深いのは休止前と解釈できる場合や、*au moins* のように成句的になればなるほどリエゾンが起きないことである。

参考文献

コーパス

Vaudelin, Gile. 1713 (1973) *Nouvelle manière d'écrire comme on parle en France*, Paris: Chez La Veuve de Jean Cot et Jean-Baptiste Lamesle, Slatkine Reprints, 33p.

— 1715 (1973) *Instructions crétiennes mises en ortographe naturelle*, Paris: Chez Jean-Baptiste Lamesle, Slatkine Reprints, 247p.

Ayres-Bennett, Wendy. (2002) “An Evolving Genre: Seventeenth-Century Remarques and Observations on the French Language”, in *Interpreting the History of French*, A Festschrift for Peter Rickard on the occasion of his eightieth birthday, Rodney Sampson and Wendy Ayres-Bennett (ed), Amsterdam/New York: Rodopi: 353-368.

Ayres-Bennett, Wendy. (2004) *Sociolinguistic Variation in Seventeenth-Century France Methodology and Case Studies*, Cambridge: Cambridge University Press.

Cohen, Marcel. (1946) *Le français en 1700 d'après le témoignage de Gile Vaudelin*, Paris: Librairie ancienne Honoré Champion.

Catach, Nina. (sous la direction de) (1995) *Dictionnaire historique de l'orthographe française*, Paris: Larousse.

De Gorog, R. (1990) “Early Seventeenth-Century Spoken French and Héroard's Journal”, *Romance Philology* 43: 431-442.

Durand, Jacques et Chantal Lyche. (2008) “French liaison in the light of corpus data”, *French Language Studies* 18: 33-66.

Eggs, Ekkehard et Isabelle Mordellet. (1990) *Phonétique et phonologie du français*, Tübingen: Max Niemeyer.

Gaatone, David. (1979) “Liaison et structure syllabique en français”, *Le français moderne* 47/4: 312-334.

Gougenheim, Georges. (1951) *Grammaire de la langue française du seizième siècle*, I.A.C. Lyon.

- Klausenburger, Jürgen. (1984) *French liaison and linguistic theory*, Stuttgart: Franz Steiner.
- Krier, Fernande. (1993) “Gile Vaudelin und die französische Orthographie”, Schmidt-Radefeldt, Andreas Harder (hrsg.), *Sprachwandel und Sprachgeschichte, Festschrift für Helmut Lüdtke*, Tübingen: Narr: 117-122.
- Laks, Bernard. (2005) “La liaison et l’illusion”, *Langages* 158: 101-125.
- Livet, Ch. –L. 1859 (1967) *La Grammaire Française et Les Grammairiens du XVIIe siècle*, Genève: Slatkine Reprints.
- Lodge, Anthony, (2004) *A Sociolinguistic History of Parisian French*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Morin, Yves Charles. (1986) “On the morphologization of word-final consonant deletion in French”, Henning Andersen (ed.) *Sandhi Phenomena in the Languages of Europe*, Berlin/New York/Amsterdam, Mouton de Gruyter: 167-210.
- Morin, Yves Charles. (2005) “Liaison et enchaînement dans le vers aux XVIe et XVIIe siècles”, *De la langue au style*, éd. par Jean-Michel Gouvard. Lyon: Presses Universitaires de Lyon: 299-318.
- Morin, Yves-Charles. (2005) “La liaison relève-t-elle d’une tendance à éviter les hiatus? Réflexions sur son évolution historique”, *Langages* 158: 8-23.
- Radtke, Edgar. (1994) *Gesprochenes Französisch und Sprachgeschichte*, Beihefte zur Zeitschrift für romanische Philologie Band 255, Tübingen: Max Niemeyer, 1994.
- Ranson, Diana. (2008) “La liaison variable dans un corpus du français méridional: L’importance relative de la fonction grammaticale”, Congrès Mondial de Linguistique Française, Paris: 1669-83.
- Rosset, Théodore. (1911) *Les Origines de la prononciation moderne étudiées au XVIIe siècle d’après les remarques des grammairiens et les textes en patois de la banlieue parisienne*, Paris: Armand Colin.
- Thurot, Charles. 1881 (1966) *De la prononciation française depuis le commencement du XVIe siècle d’après les témoignages des grammairiens*, tome second, Genève: Slatkine Reprints.
- Tranel, Bernard. (1987) *The sounds of French. An introduction*. Cambridge: Cambridge University Press.

コンコーダンス・ツール

AntConc 3.2.1w (Windows). Laurence Anthony. Faculty of Science and Engineering Waseda University, Japan; anthony@waseda.jp.

参考資料²⁹

資料 1. *ave* = *auj. avez*

e vot dairniair Confaision, e la maniair don vouz *ave aconpli* la penitans pui declare sinsairman tôu vo IC, p.65.

Jezu-Cri, nou vouz ofron se divin sacrifis. Vouz *ave agree* le sacrifis d'Abail, d'Abraan e de Mailhise IC, p.57.

nieceur, pour tou le biin ce j'e rsu de vou. Vou m'*ave aime*, vou vouz âit livre a la môr pour moai; vou IC, p.73.

mon Dieu, rsvoair vot grâs dan le Sacrman ce vouz *ave etabli* pour rmaitr nô pehe. J'e defin de comanse IC, p.63.

rair ci avâi bzoin de vô; le lieu daijreu ou vouz *ave ete*; le movâiz companiein ce vouz *ave frecante*, v IC, p.61.

e pa traite com le meritâi me pehe; de se ce vouz *ave u* pitie de moa com un Pair ci a eun compasion pla IC, p.66.

資料 2. *ont* + 母音ではじまる過去分詞

o moin a Pâc unblman? Il ordon a tou le fidaic li *ont atin* l'âj de discrecion de comunie o moin eun foa IC, p.131.

ri-in de plûz agreabl? 4. L'Egzanpl de Nasion ci *ont escri* le Lang mort, e de sail ci ecriv le Lang viva NM, p.19.

I n'âi paz etonan c'ôcun de se, ci jusc'a mintnan *ont esaie* d'Ecriv com on Parl, n'ai plâinman reusi; NM, p.17.

ic reconpans du Roa tout le Sians e tôu le boz Âr *ont ete* tailman cultivate, c'î sanbl parvnu plu o dgre NM, p.23.

ran du tanpl, loue Dieu: tôu seu ce st'ô a touhe, *ont ete* sôve, e î hantron: loue Dieu, loue Dieu. Loue IC, p.48.

pitir. Tout le sint Escritur de Profâit e dez Apôtr *ont ete* inspirê de Dieu e son la parol de Dieu. Il fô IC, p.54.

done-nou noz ofans com nou pardonon a sêu ci nouz *ont ofanse*, e ne nouz induize poin an tantasion; mâi IC, p.37.

Pourcoai dit-vouz; Com nou pardonon a seu ci nouz *ont ofanse*? Pars ce le pardon ce nouz acordon a noz â IC, p.139.

²⁹ 本資料は AntConc 3.2.1.1 のコンコーダンス結果をそのまま出力した。このため両端の単語が途中で切れている場合がある。また本稿は予備的な分析であるため、転写テキストの完全な校正を完了していない。このため本資料の中には若干の誤植・誤りの可能性があることを断っておく。

資料 3. *at-i* = *auj. a-t-il* 34 例あるため 3 例のみ挙げる。

san son ord, ou fai sa pairmision. Pourcoai Dieu nouz *at-i cree*? S'âi pour le conâitr, l'aime e le sai IC, p.31.

Tan, e Vijil de Fâit. Pourcoai le jêun de Carâim *at-i ete* institue? Pour imite le jêun de JEZU-CRI, e p IC, p.132.

e sin de la biin-ureuz Viairj Marî sa Mair. Coman *at-i ete* consu dan le sin de la Viairj? Par l'operasio IC, p.32.

資料 4. *at-ail* = *auj. a-t-elle*

man ci rmai le pehe comi aprâi le Batâim. Conbiin *at-ail* de partî? Ail ann a troais: le Contrision, la Con IC, p.109.

is. HAPITR XIV. De Comandman de l'Eglîz. L'Eglîz *at-ail* le pouvoir de fair de Comandman? Oui, JEZU-CRI 1 IC, p.129.

iang le jour de Vandrdi e Samdi. Pourcoai l'Eglîz *at-ail* ordone l'abstinans de Vandrdi e de Samdi? S'âi po IC, p.133.

資料 5. *at-on* = *auj. a-t-on*

a Dieu, o o prohin, pour l'injur c'on li a fair. *At-on* ancor oblige de satisfaire a Dieu aprâi ce le pehe IC, p.112.

om son prinsipalman la Priair, le Jêun, e l'Omôn. *At-on* oblige de satisfaire a son prohin? Oui, i fô repar IC, p.112.

? Se srai d'avoair de santiman de âin contr Dieu. *At-on* osi oblige d'aime son prohin? p.121 Gran Catehi IC, p.120.

S'âi li dzire e li procure le mâim biin c'a soai. *At-on* oblige d'aime sez âinmi? Oui: Not-Sainieeur nouz IC, p.121.

資料 6. *a* + 母音で始まる語: *aucun, une, aussi*

l'I latin. AE. OE com E. e &. com ET, ou AIT. H *n'a ocun* Son an Latin. Aprâi le P, i li fai toujou pr IC, p.142.

r anui-ieu e rarman tou bon. S'âi se ci m'a porte *a eun* estraïm briaiivte. Je me trouvrâi fort onore s NM, p.33.

; de se ce vouz ave u pitie de moa com un Pair ci *a eun* compasion plain de tandrais pour sez anfan; j IC, p.66.

harje d'oprobr, fouaite, courone d'epin, e atahe *a eun* croai ce veu dir: âi môr? S'âit-a dir ce son IC, p.88.

Sint-Espri. Esplice-nou se parol. J'antan c'il i *a eun* troaiziaïm Pairson an Dieu, ci âi le Sint-Esp IC, p.90.

munion? Hacun la doai fâir dan sa Paroais, s'il *n'a eun* pairmision particulier de la fâir alieeur.

D IC, p.132.

de la Tradision? S'âit a l'Eglîz, a lacail il ann *a osi* done la veritabl intailijans, e le pouvoair d IC, p.119.

資料 7. 非倒置疑問文での動詞 3 人称単数形のリエゾン

ne doit-i âitr instrui ce de se troai mistâir? I *doait ancor* savoair le Sinbol, le Comandman de Dieu e d IC, p.103.

ndr la Mais pour santifie le Dimanh e le Fâit? On *doait ancor* assiste a l'Ofis divin e ôz Instrucion Cret IC, p.131.

. Je li e repondu ce je la Mâi 10. Pars ce hac Mo *doait avoair* o moin eun Voaiail. 20. Pars c'eun Difton NM OBSERVATION.

' om saj, ci ezit a se le donê; d'ou je conclu c'i *fôdrait âitr* bi-in delica, e trop ainmi de la pairfaicsio NM, p.19.

ann a deu prinsipal. Ci sont-ail? Primiairman, i *fôt âitr* a jun, si se n'âi c'on rsu se Sacrman an mal IC, p.106.

rsu se Sacrman an maladî, com Viatic. Sgondman, i *fôt âitr* a jnou, e avoair eun esterieur le plû modais IC, p.106.

U-CRI. Ce fôt-i fair pour ganiee lez Induljans? I *fôt âitr* vraiman penitan, e aconpli le condision pres IC, p.113.

s'i pas injere de soai-mâim. Cail âi la sgond? I *fôt âitr* anime du zail de la gloair de Dieu, e du sal IC, p.115.

fas jamâi. A cail dispozision fôt-i le rsvoair? I *fôt âitr* instrui de prinsipô mistâir de la foai, an r IC, p.102.

atize, e d'avo-air la Fo-ai pour âtr sôve? Nou, i *fôt ancor* garde le Comandman de Di-eu e de l'Eglîz. C IC, p.35.

batize, e d'avoair la foai pour âitr sôve? Non: i *fôt ancor* garde le Comandman de Dieu e de l'Eglîz. Co IC, p.117.

de nô pehe, e tout le grâs don nouz avon bzoïn. I *fôt antre* dan se mâim vû lôr c'on va a la Mais, e i a IC, p.53.

Gran Catehism. sa coupabl de cec pehe mortail, i *fôt avoair* rcôur o Sacrman de Penitans. Cail âi la sg IC, p.106.

Il i ann a catr prinsipal. Cail âi la prmiair? I *fôt i âitr* aple, e ne s'i pas injere de soai-mâim. Ca IC, p.115.

ansâi Ecriv le prmie com on pronons leu Lang, c'i *fôt ojourd'ui* savoair avan ce de la povoair lir, î do NM, p.27.

tan dbou o pie de l'Otail, e le Ministr a jnou, î *font ansanbl* le sinie de la Croa, e le Prâitr di tou ô IC, 40.

n propr Pasteur. Ne peut-on le rsvoair ôtrman? On *peut ancor* le rsvoair de tou Prâitr, e an tout

ôtr lie IC, p.116.

firmasion produit-ail ancor d'ôtr efâi? Oui: e on *peut aple* efâi du Sacman de Confirmasion le sai vairt IC, p.100.

pluzieur Dieu? Non, i n'i ann a c'un, e i n'i an *peut avoair* pluzieur. I at-i pluzieur Pairson IC, p.82.

ar eun fairm foai c'il i a un Dieu, e c'i n'i an *peut avoair* pluzieur. Pourcoai ne dit-vou pa seulman c IC, p.85.

nfirmasion. Cail âi la sgond verite? S'âi c'on ne *peut avoair* ni consairve la pâi ce par la pasians, e IC. p.101.

pluzieur Di-eu? Nou, i n'i ain a c'un, e in'i ai *peut avo-air* pluzieur. Ou âi Di-eu? Il âit o Sial e a IC, p.31.

aj avai lez Anj e lez ôtr Biinn-urê. PRIAIR ci se *refit o* Prôn. IC, p.50.

de sez acsion: e le Côr se coron ann atandan c'i *resusit o* jour du jujman jeneral. Cail âi la reconpans ce IC, p.135.

資料 8. 他の動詞の 2 人称単数・複数, 1 人称複数のリエゾン形

draz a ton aisi-an. 8. Fô temo-anieaje ne dirâ Nî *mantiraz oceuneman*. 9. L'êuvre de hâir ne dzirerâ C'a mari IC, p.26.

onsanteman. 7. Le bi-in d'ôtru-i tu ne prandrâ Ne *reti-indraz a* ton aisi-an. 8. Fô temo-anieaje ne dirâ Nî mant IC, p.26.

t memoair la dairniair Comunion ce vouz ave fait; *remairsiez-an* Dieu, omilie-vou de defô ce vouz i rmarce: voaiie IC, p.69.

nou-mâim a la Justifiasion? Non, i fô ce nouz i *saiionz ecsite* e aide par un mouvman interieur du Sint-Es IC, p.94.

資料 9. 子音の前で用いられた代名詞 *il* 形

c'i fai avai le Crâim su le fron de la pairson c'*il confirm* an prononsan an mâim tan de parol ci espr IC, p.100.

vairtu. Pourcoa l'Evâic frapt-i su la jôu slui c'*il confirm*, an li dizan: La pâi fait avai vou. Pour IC, p.101.

te Comunion? Hacun la doai fâir dan sa Paroais, *s'il n'a* eun pairmision particuliair de la fâir alieeu IC, p.132.

veritabl prononsiasion c'il ont ojourd'ui; pars c'*il ne* sra jamai paimi slon st'Ortograf de le Lir, e NM, p.23.

le Samedi mâimeman. Ce le Sainie-eur nou benis, c'*il nou* gard e nou prezairv de tou mal, c'il nou cond IC, p.27.

benis, c'il nou gard e nou prezairv de tou mal, c'*il nou* conduiz a la vî etairmail, e ce lez Âm de sêu IC, p.27.

e le Burait (si dâija ail n'aitâi a l'Otail) e *s'il pās* dvan le Sin Sacrman i fai la reverans. Atan a IC, p.40.

in ce la pâin etairnail sa rmiz par l'Absolusion, *il raist* ancor ordinâirman a soufri eun pâin tanpora IC, p.112.

tr maniair; e pars c'il sra toujou vrai de dir, *c'il se* prononsâi com sa an 1712. 10. Par lez Ordr e NM, p.23.

Lir, e de le Prononse d'eun ôtr maniair; e pars *c'il sra* toujou vrai de dir, c'il se prononsâi com sa NM, p.23.

資料 10. 母音の前の代名詞 on

an pehe mortail, i fô se confaise oparavan, cant *onn âit* an pouvoair de le fair: e si on ne le peu pa, IC, p.114.

ise ce rnonse a Satan? S'âi declare solanailman *c'onn abandon* le parti du Demon pour se soumaitr a la l IC, p.98.

onaitr st'Alfabai reforme, e lez utilite, *c'onn an* peu rtire. Se c'i fô fair, n'âi jamaiz indinie NM, p.21.

avaic un jujman sin e libr, on s'i dispoz mieu, e *onn an* tir plû de frui. A cail dispozision la fôt-i r IC, p.114.

at-i ete adore de Maj? Le jour de l'Epifanî, ce *l'onn apail* le jour de Ro-â. Cail jour at-i institue le IC, p.33.

r de l'Incarnasion? S'âi le Fi de Dieu fait om, *c'onn apail* Not-Sainieeur JEZU-CRI, Dieu e Om tout ansa IC, p.102.

e deu sort: l'eun parfait e l'ôtr inparfait, ce *l'onn apail* Atrision. SAICSION I. De la Contrision parf IC, p.110.

an e la devosion vou pouve ajoute le (...) (...) *Onn obsairv* ce la distincsiom de se troai caractair i IC, p.76.

資料 11. 前置詞 avaic + 母音

eun Voaiiail dous port naturailman e supôz toujou *avaic ail* la Voaiiail e. 60. Pars-ce sla nouz eparnie l NM, OBSERVATION.

. Acte de Dzir. Mon Sainieeur e mon Dieu, je dzir *avaic anprâisman* d'âitr uni a vou par IC, p.71.

vû lôr c'on va a la Mais, e i asiste avai respai, *avaic atansion*, e avaic eun vrâi piete. Pandan ce le Pr IC, p.53.

he moa jusc'ô moindr de mez inicite; je lez ecout *avaic atansion*, e rezolusion d'an fâir eun unbl e antai IC, p.61.

dan le Siail? Oui, pars ce le harite ci nouz uni *avaic êu*, fait antr eu e nou, un comairs de priaïr, ce IC, p.92.

a Mais, e i asiste avai respai, avaic atansion, e *avaic eun* vrâi piete. Pandan ce le Prâtr o bâ de l'Otai IC, p.53.

oront ete hanje: fait ce nou nouz ofrion nou-mâm *avaic eun* espri umilie e un ceur contri. Pandan ce le P IC, p.55.

Penitans. Cail âi la sgond? S'âi de s'ann aproche *avaic eun* Foaï viv, eun avai de profon santiman d'umili IC, p.106.

rinsipal. Cail âi la primiair? S'âi de le rsvoair *avaic eun* consians purifiê de tou pehe mortail. Cail âi IC, p.116.

de la propoze ô Fidaïl par un jujman infalieibl e *avaic eun* souvrâin otorite. Coman paiht-on contr la Foa IC, p.119.

not salu. C'âi-se c'espere an Dieu? S'âit a tandr *avaic eun* fairm confians de sa bonte infinî le biin c'i IC, p.119.

r, ou par cec ôir creatur. Sgondman, s'âi de jure *avaic inprecasion* e maledicsion su soai-mâim, ou su le IC, p.124.

ehe mortail. Cail âi la sgond? S'âi de le rsvoair *avaic intansion* de sairvi Dieu dan st'eta. Cail âi la t IC, p.116.

conpli, fait-li conaïtr avai simplisite e tne vou *avaic umilite* a se c'il ordon. Cant i vou don l'absolus IC, p.66.

oir bi-in prononse leu Lang naturail, le portrai *avaic un* tail anpraisman a profite de lez Ecri, e de le NM, p.25.

pluzieur de se Hifr varî leu prononsiasion dvan e *avaic un* mo ci comans par eun Voaiïail, ou ci comans pa IC, p.80.

uleur e eun detaïstasion du pehe ce l'onn a comi, *avaic un* fairm propô de n'i plût rtonbê. Cail son le ma IC, p.109.

sufi d'âitr danjrêuzman malad: e cant on la rsoai *avaic un* jujman sin e libr, on s'i dispoz mieu, e on an IC, p.114.

m. Can sa matiaïr âi considerabl, e c'on le comai *avaic un* parfai consantman. SAICSION II. Du pehe veniaï IC, p.135.

資料 12. 副詞 pas + 母音

lâi... On n'ajoutra poin ce s'âi mairvailie de ni *paz âncor* voair cec Caractair Ebreu, Arab, Siriac... NM, p.29.

tanporail du o pehe. Cail âi l'eta de seu ci n'on *paz acite* le pâin dû a leu pehe! Iz ahaiv de lez ecsp IC, p.136.

se a la Reform de l'Ortograf Fransaiz. 2. I n'âi *paz etonan* c'ôcun de se, ci jusc'a mintnan ont esaiïe NM, p.17.

il e Ansiâin, n'efrâira ce lez i-eu, ci n'aboutis *paz ô* san comun. O contrâir ail ecitra la curiozite NM, p.17.

ut se ci li plâi. La tout-puisans n'apartiint-ail *paz ô* Fi e ô Sint-Espri, osi biin c'ô Pair? Oui; se t
IC, p.86.

n'ann on ce d'arbitrâir. Pourcoa ne nou fron-nou *paz oneur* e plaizi de transmaitr a tôu le
Savan de si NM, p.27.

ou don la grâs de la justificasion ce nou n'avion *paz oparavan*, com le Batâim e la Penitans: e
lez ôtr IC, p.94.

ifis de la Mais. Le Sacrman de l'Ucaristi n'âit-i *paz osi* un sacrifis? Oui, pars ce JEZU-CRI ne
s'i don IC, p.107.

iom de se troai Caractair italic AN. AN. ou. n'âi *paz otan* sansibl c'i le fôdrai. Insi on suppli le
Laic IC, p.76.

la Prononsiasion, ne sair c'a escuze seu ci n'ont *paz u* le mo-aï-in de fair ste parfait rsanblans;
Jam NM, p.19.

n fôt-i fâir ste Confaision? Coai ce l'Eglîz n'ai *paz univairsailman* detairmine le tan de la
Confaision IC, p.131.

sanblans; Jamaiz i ne justifira seu ci ne voudron *paz uze* de se sgrai, ce je leuz ansainie. 5.
Lôrc po NM, p.19.